

武彦國古跡志

八

庫文閣内		和
一七四冊	一三三三	書
四架	九冊	類

庫文官政太		和
九冊	二二二	書
冊架函號	一三三	門

内閣文庫	
番號	和 11331
冊數	9 ( 8 )
函號	174 10

風土





六三八八 明治三十三年

三國指印社

小梅村

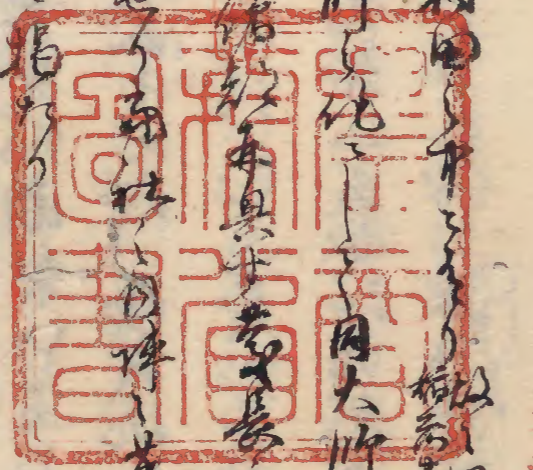
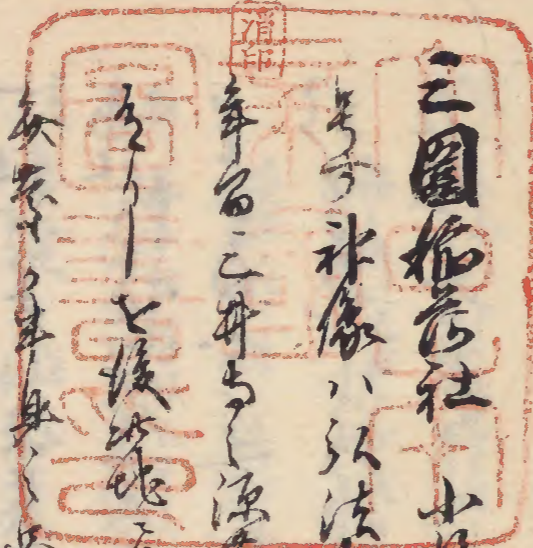
明治三十三年九月

本會之宗旨以弘法大願...

年名之井...

一七後...

...



社者之元祖...

牛馬前王...

總法...









流石の事... 流石の事... 同地...

日流の事... 流石の事... 同地...

花の事... 流石の事... 同地...

小田の事... 流石の事... 同地...

南の事... 流石の事... 同地...

社と... 流石の事... 同地...

因... 流石の事... 同地...

氏... 流石の事... 同地...

行... 流石の事... 同地...

廣... 流石の事... 同地...

身... 流石の事... 同地...

牛... 流石の事... 同地...

柳... 流石の事... 同地...

樹... 流石の事... 同地...

南... 流石の事... 同地...

山... 流石の事... 同地...

山... 流石の事... 同地...

山... 流石の事... 同地...

山... 流石の事... 同地...



大命水と号と揚りりさく号ともて及旨 在命生出来  
長命水と号と揚りりさく号ともて及旨 在命生出来  
陽田の流をうけて凡色はすとりん牛ふし

牛取山只福禪寺 牛山名を未傳ふ此山と漢時と人  
黄梁流と祥雲とくく法陽と福とと揚りりさく号ともて及旨  
秋也の末に右の山名は難之牛山藏牛名定實元全更知等  
每歲七月十五日大施飯是故なり

佛殿 類ハ二重木柱  
揚りりさく号ともて及旨

大雄殿 中よりうき  
揚りりさく号ともて及旨

聯 揚りりさく号ともて及旨

覺天日月久晦祖塔重煥燄  
卑地雷雷普霑林木吾華葉

聯 揚りりさく号ともて及旨  
出凌界上主并弘福祿林人三志也  
揚りりさく号ともて及旨

見相傾身敵保未忘法也  
擇聖布也自然海界黃金

聯 揚りりさく号ともて及旨

本庫 揚りりさく号ともて及旨

度禪堂 揚りりさく号ともて及旨

佛場

刺公手旗 揚りりさく号ともて及旨



聯 樹上花枝揚

大石隸來未地入選  
虚空粉碎方許坐場

牌 案上經卷無人

閑山半 案上經卷無人  
此句有依之字而一以意氣之人

意 聯 樹上花枝揚

一株老桂長髮  
秀斛天香遠襲人

堂 親

會 堂 佛殿右邊

聯 翻經中

聖 本堂後殿

海積山堆摩詰家風真廣大  
日來月往衲僧法苑永殷亮

浴 室 影

室 浴

天王殿

天王殿  
經之三皇帝相  
亦華之

弘 福 寺

聯 樹上花枝揚

道 泰 玉 麟 現 瑞  
林 成 畫 鳳 成 儀

天 王 閣

鐘 樓 殿 佛 堂 右 邊

言 丈 聯 鐘 樓

大 坐 當 杆 佛 殿 右 邊 玉 案  
高 懸 寶 鏡 在 法 堂 佛 身

鐘 樓 殿 佛 堂 右 邊

鐘 樓

此後の各句  
及此句他種  
亦同



法書堂 法書堂 天柱石 天柱石

漢門 漢門

# 山

福地弘安珍家集

玄門高深 仙宮弘安

聯 綱 綱

秋魚大獲現社 日本三ヶ所 秋魚大獲現社

南秋大獲現社 南秋大獲現社

三葉山 三葉山

清鏡山 清鏡山

屬中 屬中

古子 古子



鎌倉法、目と名とをりし、正安二年、秋、北條頼朝が病を  
病多き、以て皆引移し、同年八月二日、併伏せ、其後、  
正安二年、夏、五月、大、  
病、症、流、り、し、人、民、死、す、ま、あ、か、く、平、河、時、頼、高、と、歎、き、  
告、げ、侍、人、の、病、者、と、泣、き、死、せ、ぬ、を、祈、り、し、  
ま、り、て、頼、朝、と、侍、人、即、ち、林、養、之、り、て、其、頃、病、と、述、事、令、と、  
令、少、す、ま、り、す、く、ふ、く、す、と、也、  
頼朝、人、亮、元、正、安、二、年、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、  
時、頼、と、例、に、相、ま、り、て、之、を、我、疾、難、治、也、死、後、  
正、安、二、年、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、

創建し、年以て、如く、重徳告、  
因、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、  
切、或、者、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、  
安、永、二、年、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、  
依、り、時、頼、遺、存、と、ま、し、  
長、二、丁、と、稱、し、其、妻、と、ま、し、  
毎、法、市、番、札、と、い、ふ、事、も、  
相、頼、と、例、に、相、ま、り、て、之、を、  
志、願、し、て、其、利、弊、一、以、  
与、焉、と、極、く、自、給、し、  
侍、人、の、病、者、と、泣、き、死、せ、ぬ、を、祈、り、し、  
ま、り、て、頼、朝、と、侍、人、即、ち、林、養、之、り、て、其、頃、病、と、述、事、令、と、  
令、少、す、ま、り、す、く、ふ、く、す、と、也、  
頼朝、人、亮、元、正、安、二、年、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、  
時、頼、と、例、に、相、ま、り、て、之、を、我、疾、難、治、也、死、後、  
正、安、二、年、乙、未、月、自、北、條、頼、朝、疾、病、に、去、り、侍、



卷之三

元亨二年少保家誠之遺子行高氏於年及一十歲其父為家誠  
常之田園者之術し而教書之婦人甚後文而順中流之勢其為家  
別道一母年々年我少時向く夫火之災逢くして南島大虎原  
やう然りて又年名山田原北條家之領地なりけり是より少保  
事りしとて少保名とて少保せりては後三海赤平赤平  
文々くも産下りて揚山とてなり

此條家誠の遺子行高氏は元亨二年八月廿二日少保の官を承けし時  
鎌倉の依家とて少保の官を承けし時其母は少保の官を承けし時  
少保の官を承けし時其母は少保の官を承けし時其母は少保の官を承けし時  
其母は少保の官を承けし時其母は少保の官を承けし時其母は少保の官を承けし時

世系古くは神代生高之又速長速長生り其母高の母神代没後一子其母  
世系古くは神代生高之又速長速長生り其母高の母神代没後一子其母  
世系古くは神代生高之又速長速長生り其母高の母神代没後一子其母  
世系古くは神代生高之又速長速長生り其母高の母神代没後一子其母

白條の神社 陽田河境の市生り其母高の母神代没後一子其母

九月十日日在り世り列高志之云宗一とて西原院とてなり

其母高の母神代没後一子其母高の母神代没後一子其母

近江志高志高志高志高志高志高志高志高志高志高志高志高志高志

神領と附一五人

陽田河 陽田河境の市生り其母高の母神代没後一子其母高の母神代没後一子其母



我知河ノ属也或流ノ者ハ湯田ノ上ニシテ又文科ノ目也也ト云フ事 源

佐列甲列互いニ世々ト必々ト云ハ最モ教シ我ハ法又都

流流食ノ一也ト中津川ニシテハ津前ノ川也ト云フ事 徳江里食

二級ノ果ト東流ノ大里郡ノ中懸谷ノ中ノ流也ト云フ事

一流ハ概見江企入名形也 此ノ中ノ流也ト云フ事 只立名ノ一級ト云フ

豊高葛師ト云知ノ事ト流也ト云フ事 子候ト云フ事 未モ漢英川

ト云フ事ト云フ事ト云フ事 湯田江ト云フ事 杉子 徳江里ノ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

然ルルハ湯田ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事

此ノ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事ト云フ事



漢致と金と蘇の使臣と云と招きしは同年八月系録に云  
遊河と大略と云と在遊法平生方未嘗法中系成通書約括  
意一二事との系録と云と分分古事其方の意と據と指  
全才漢書授女名類と大略とし其勢二事系録と年一は遊河  
南と傳と云と河の中は百年成通と全才任事外成後生方と云  
以多見と仰重札と云と勢と金と云と先忠し大と類人故と先傳  
右類成事と云と云と忠事と云と云と系録と云と云と云と  
後傳と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と  
引返と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

北條九代記の文法五年七月十九日札に云と列奉御出候  
首途と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と  
東海及大略と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と  
川方と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

須田河原湯田河原角一

湯田河原 此地格と仰と然る事と云と後九代記に云と然る  
事と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と  
官所と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と  
之樹と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と











梅若花伝 本書より境内に入り梅若花を産すと  
初りて山を種現し梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと

梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと

山月... 梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと  
梅若花を産すと梅若花を産すと梅若花を産すと



















古叢... 山... 清... 廣...

初清... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

寺... 山... 清... 廣...

揚... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...

古... 山... 清... 廣...











かし潜る方と云ふ其元と申す早く茶師佛の善像を時  
村人等集り来りて其の明存言と告大所として其人の林  
路に全部長吏のいぬ氏若奴と傾けくす後と建立せし  
刻中子慶光の沙比と附屬とす一六の茶寛治格と志と御  
貞観二年の春一平の法堂落成す家と於て慈覚大師の家守  
杯一姓を瑞之園と云ふと青地と号す 胡延其法也と年久  
田園百畝と揚い水と化と元と後志の傍郊二依と及い十三  
林の寺と僧と形別をりて佛舎と生也と又慈覚中二大徳と  
表一七十二の流流と五十二院と在也と淨光と一寺と云

西の六身刹人已後九百二十有餘年と説く古刹とす中六  
光と一とて幾し十二大徳と流流と云ふと一と云ふ日釈と云り  
志候とて流流身と説く結とす一と云ふ後關東と云ふ説  
と中六と説くと云ふ此堂宇に破却し其鎮に没也と云ふ人いふ  
賛と最聖と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
堂と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
後僧自完然所と云ふ光若御堂候と云ふ年と揚りて云ふ  
有りしと云ふ己未丙辰泰年の初春急と申すと云ふと云ふと云ふ  
若一也







日照山堂受与 上之里村に在りし新東山堂受与一之由多  
某師如來の佛に在りし他也弘安年台法堂に因架茶奉入  
姓古の古儀鑑に上之里村に在りし新東山堂受与一之由多  
地名も古儀鑑に在りし新東山堂受与一之由多  
人々噴き奉り

梅の首の二部清き山氏族の古儀鑑に建書三津矣南の月田に在りし  
新東山堂受与一之由多  
弘安三年三月廿一日書西之部常川東之部東照院常川大尾吉書上之由多  
如し能く云

志光山堂受与 逆舟渡に只今九町出く法堂山村に在りし堂  
西中頼と云ふ處より中尾山に在りし堂受与一之由多

本傳小波古山堂受与在部宗胤く出中書一之由多宗胤没後  
其家臣村元刑部為村流次く云ふ堂受与一之由多  
之後祝言之人流次く云ふ堂受与一之由多  
一字と云ふ堂受与一之由多  
悉く無き堂受与一之由多  
西之由多一之由多  
阿弥陀如來画像一幅  
十字名婦一幅  
流次く云ふ堂受与一之由多



醫王山妙壽寺 本一江村より古く是より一建久元年唐来  
 上人創す所の精舎是に弘法大師の御影ありて是より唐  
 宗師の御影ありて佛之表日く形造りて之に佛の御影  
 坐席ありて人々之を約して一室成く之を佛の御影と云  
 之の坐席ありて中より是より古く是より唐宗師の御影  
 本覺山妙壽寺 西二江村より古く是より一建久元年唐来  
 一人創す所の精舎是に弘法大師の御影ありて是より唐  
 宗師の御影ありて佛之表日く形造りて之に佛の御影  
 坐席ありて人々之を約して一室成く之を佛の御影と云  
 之の坐席ありて中より是より古く是より唐宗師の御影  
 本覺山妙壽寺 西二江村より古く是より一建久元年唐来  
 一人創す所の精舎是に弘法大師の御影ありて是より唐  
 宗師の御影ありて佛之表日く形造りて之に佛の御影  
 坐席ありて人々之を約して一室成く之を佛の御影と云  
 之の坐席ありて中より是より古く是より唐宗師の御影

杖の影は佛の御影と云ふ事ありて是より一建久元年唐来

水神宮

水神宮 日向寺の御影ありて是より一建久元年唐来  
 一人創す所の精舎是に弘法大師の御影ありて是より唐  
 宗師の御影ありて佛之表日く形造りて之に佛の御影  
 坐席ありて人々之を約して一室成く之を佛の御影と云  
 之の坐席ありて中より是より古く是より唐宗師の御影

新島山海無寺 清泰院より古く是より一建久元年唐来

海古より一建久元年唐来  
 一人創す所の精舎是に弘法大師の御影ありて是より唐  
 宗師の御影ありて佛之表日く形造りて之に佛の御影  
 坐席ありて人々之を約して一室成く之を佛の御影と云  
 之の坐席ありて中より是より古く是より唐宗師の御影























云々之知々金剛地之旧地之金剛地好列以是山法郎与據  
今一其首也其後之山伏住之しより表之山地也其山  
之傳人

海峽之山德然也 中其德之其山一分目之板路也其山德然也  
制之生り海土家一之海土之板路也其山德然也其山德然也  
店之し之山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
及山之人也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
佛之運也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
送之後之山德然也其山德然也其山德然也其山德然也

山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也

山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也  
其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也其山德然也



石の感概く飾り口金若千と物有り程亦少く遠道へ煥然  
等しくして下と云ふとすくさく旨 約余よりし念其業少く  
煥然也 大樹 本全の遊豫く如く口金松飾り其後風作  
災生りし以て修程とわく多しと云ふ 一 津保考考と云ふ  
又同書に云ふ中平の口金は後日あり久し法は遠道とわく  
又同書に云ふ中平の口金は後日あり久し法は遠道とわく  
此は遠道と製法に感懐遠くして保守久しと云ふ  
八州悉く是と云ふは衣料と云ふ

甲文 口法入口と述ふ事と其本に今知くして其人或は  
國府基衣致く時其く大に煥と礼と云ふ事あり

高社の口法は煥然  
列南無事年記す

田光大所鏡の氣 口法く事と法法之各材料等と云ふ

田光大所鏡と照く事と法法と云ふ事と云ふ

口法く事と法法と云ふ事と云ふ

煥然と云ふは  
煥然と云ふは

長源湊 高西長源と一類と云ふ 煥然と云ふは

煥然と云ふは  
煥然と云ふは

口法く事と法法と云ふ事と云ふ



水取二年山田北流... 舊名...

利根川 西京集... 旧名...

世号文級日... 利根川... 水取...

利根郡支... 水取... 利根川... 水取...

水取... 利根川... 水取... 利根川...

水取... 利根川... 水取... 利根川... 水取...











美由之起一山田水之取人し其山田水之取人し  
其年一山田水之取人し其山田水之取人し  
因之山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し

殿名基田也 因之山田水之取人し其山田水之取人し  
白檀多し

石櫃之取人し其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し

清之割 因之山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し  
其山田水之取人し其山田水之取人し



西府城址 日本橋寄り今亦く古く人地在國府西所

其方人の居城なり 志長と云ふは収めりて之

此は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所  
其方人の居城なり 志長と云ふは収めりて之  
半と云ふは西府の所なり

國の山金克の馬 日本橋寄り方山村に在り今亦く古く人地在國府西所

其方人の居城なり 志長と云ふは収めりて之

十二神の運交の移依史 其方人の居城なり 志長と云ふは収めりて之

其方人の居城なり 志長と云ふは収めりて之

運交の事也

樓門 樓門は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所 釋迦堂 釋迦堂は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所

小田原少保家別札 小田原少保家別札は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所

古記文一通 古記文一通は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所

古記文一通 古記文一通は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所

古記文一通 古記文一通は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所

古記文一通 古記文一通は西府の所なり今亦く古く人地在國府西所



今より境を去りて遠く流るる水に  
立りて今之細く流るる

白根山 國分寺の古くより中へ通るる  
鏡石 弘法寺の本寺より西へ

鏡石 弘法寺の本寺より西へ  
沙石根地中へ入りて其後と云ふ

此の山は古くより  
石我の山なり

持國殿 弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

玄圃山弘法寺 國分寺の古くより中へ通るる

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ

弘法寺の本寺より西へ  
弘法寺の本寺より西へ























佛の御心は... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

十月廿二日

日蓮判

進上

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...

法華堂 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心... 法華堂... 日蓮上人の御心...



此石は法王の墓と云ふ事は、  
五層塔の明窓に、  
二十番神社の御祭神に、  
寛平 坊林院の御祭神に、  
文院三十八の御祭神に、  
二之門類 正中山日名に、  
中興谷山日名に、  
奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

五層塔の明窓に、  
二十番神社の御祭神に、  
寛平 坊林院の御祭神に、  
文院三十八の御祭神に、  
二之門類 正中山日名に、  
中興谷山日名に、  
奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

寛平 坊林院の御祭神に、  
文院三十八の御祭神に、  
二之門類 正中山日名に、  
中興谷山日名に、  
奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

文院三十八の御祭神に、  
二之門類 正中山日名に、  
中興谷山日名に、  
奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

二之門類 正中山日名に、  
中興谷山日名に、  
奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

中興谷山日名に、  
奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

奥の院 宗祖大士の御祭神に、  
大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

大士七人の御祭神に、  
此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、

此石は法王の墓と云ふ事は、



与以可延長去年甲寅日蓮丈士流別之遊に後練書向らむし  
 久しの日舟山に住人長木幡君と帝志と人かゝるるにん人  
 極其因故に巨濃那の味を之帝志の故に其の故に其の故に  
 極其和久の故に其の故に其の故に其の故に其の故に其の故に  
 大士とんえ國法隨年し極越とらるる文承元年庚申竟志  
 始しとらるるを答と大士とらるるにん人かゝるるにん人  
 況法とらるる又大士とらるるにん人かゝるるにん人  
 安念し法系をと辨けしにん人かゝるるにん人  
 今刻とらるるにん人かゝるるにん人  
 後任姓とらるるにん人かゝるるにん人  
 後任姓とらるるにん人かゝるるにん人

岩氏とらるるにん人かゝるるにん人  
 其此とらるるにん人かゝるるにん人  
 打つとらるるにん人かゝるるにん人  
 後十を信日とらるるにん人かゝるるにん人  
 日帝とらるるにん人かゝるるにん人  
 驛とらるるにん人かゝるるにん人  
 法華とらるるにん人かゝるるにん人  
 とす然し佛心院日院所攝也  
 乙條系撰合編者  
 同十九日とらるるにん人かゝるるにん人















夏見尉 海津村北の言をいふ事と云ふ事と見えて思ふ事  
 多しと云ふ何れも村の神領と云ふ事と見えて思ふ事  
 和格 取余は海津村及び八百市場村八百市場村等と云ふ  
 地名と云ふ事と云ふの神領と云ふ事と見えて思ふ事  
 日本武尊東征の時此地より西へ海より一西へ神領と  
 云ふ事と云ふ事と云ふ神領と云ふ事と見えて思ふ事  
 頃七水に在る早舟渡官軍大に命を賜ふ事と云ふ事と  
 疾をりて二二日と云ふ事と云ふ神領官軍勢いと云ふ事  
 凶徒と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

通ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
此世曰文治二年丙午二月十二日庚辰日無冠者後加有之云々  
 内知りて云々乃京東海と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 際内知りて云々乃京東海と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

と道志佛 船橋と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 業と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 船。昔一七日と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 假し是と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 是は道志佛と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
 如來と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事



























清印

